



ほけんだより

上庄ひいらぎこども園 5月

入園・進級から1カ月が過ぎ、子ども達も新しい環境に適応しつつあります。また、気温の上昇と共に子ども達の活動も活発になります。子どもの急な飛び出しなど、大人が急に子どもの手をひっぱるときに起きやすい【肘内障 (ちゅうないしょう)】ですが、転んだ時や朝の起き上がり時など、引っ張らないのに起きることもあります。



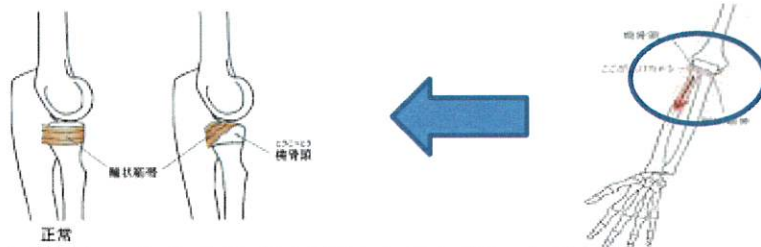
【肘内障】

子どもが突然激しく泣き出し腕をダラリとして動かさないときは肘内障(正式には輪状靭帯脱臼)が疑われます。



症状 子どもの手を引っ張った後などに子どもが痛がって腕を下げたまま動かさなくなる、突然泣きだし腕を触られることを嫌がり麻痺したように腕がダラリと垂れ内側を向いたようになります。

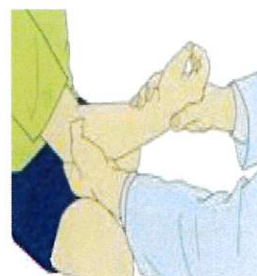
原因 肘の靭帯から肘の外側の骨(橈骨)が外れかかることによって起こります。これは、骨も靭帯も未発達な幼児、つまり6歳以下の幼児(特に1歳～3歳)に起きやすいと言われています。



肘関節は関節より上にある上腕骨と関節より末端にある橈骨と尺骨の3つの骨で構成されています。この肘の関節にある輪状靭帯が橈骨から外れて骨の間に挟まった状態です。

診断 骨折や脱臼との鑑別のため画像診断(レントゲン)や超音波診断、受傷時の状況と症状により診断されます。友達と遊んでいた、ひとりで遊んでいるときなど原因が不明なときは骨折等がないか慎重な判断が必要です。

治療 自然に元に戻ることもありますが多くは治療が必要です。関節を元に戻す処置、右図のような徒手整復(としゅせいふく)が行われます。整形外科や徒手整復に慣れている小児科を受診します。整復すればすぐに手を動かせるようになります。



就学前には

子どもに不意に力を加えないように気をつけましょう!

子ども同士で手をつないで歩くときは一方の子どもが転んだ拍子に強く引っ張る可能性があります。手をつないだまま走らないようにしましょう。

一度起きると繰り返す場合があります。